

海軍公報

第一〇八號 (乙配付)

昭和二十年四月二日(月)
海軍大臣官房

○令 達

内令員第六〇五號(軍極秘)
當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和二十年三月二十六日

海軍大臣

大浦突撃隊(第三甲標的基地隊要員ニ充ツベキモノ)

軍醫科尉官 隊附 一人

兵 曹、水 兵 二十三人
(特種兵(前)四、特種兵(自衛)一、特種兵(補給)七、特種兵(水測)四)

機關兵曹、機關兵 三十二人
(特種兵(自衛)三、特種兵(補給)六、特種兵(水測)一)

工作兵曹、工作兵 五人
(特種兵(自衛)一、特種兵(補給)四)

衛生兵曹、衛生兵 二人

主計兵曹、主計兵 四人
(特種兵(自衛)一)

長官	參謀長	機關長	副官	參謀	副官	參謀	副官	參謀	副官

軍極秘海軍公報 第一〇八號 昭和二十年四月二日

2327

2326

軍極秘

海軍公報

第一〇八號 (乙配付)

昭和二十年四月二日(月)
海軍大臣官房

○令 達

内令員第六〇五號(軍極秘)
當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和二十年三月二十六日

海軍大臣

大浦突撃隊(第三甲標的基地隊要員ニ充ツベキモノ)

軍醫科尉官 隊附 一人

兵 曹、水 兵 二十三人
(警備兵)一、(警備兵)七、(警備兵)四一六

機關兵曹、機關兵 三十二人
(警備兵)一、(警備兵)二六

工作兵曹、工作兵 五人
(警備兵)一、(警備兵)四

衛生兵曹、衛生兵 二人

主計兵曹、主計兵 四人
(警備兵)一

長官 森 謙 次 博 司 郎 次 郎

軍極秘海軍公報 第一〇八號 昭和二十年四月二日

一一一

2327

2326

海軍公報

第一〇九號 (乙配付)

昭和二十年四月四日(水)
海軍大臣 官房

15 號

○令 達

官房教機密第一六一號(軍極秘)
術科現地指導規程ニ基キ左ニ依リ通信術指導班ヲ九州及中國方面ニ派遣シ主トシテ第二、第三特攻戰隊ニ對スル術科指導講習ヲ實施ス

昭和二十年三月三十一日

海軍大臣

一 編制等

組別	編制	派出總方面	指導實施要領
第一組	班長 海軍中佐 半田仁貴知 班員 海軍技手 鈴木理助 兵曹長 吉田豊之進 兵曹 二	九州	講習ノ細項ニ關シテハ第二、第三特攻戰隊司令官ト詳細打合せ實施スルモノト
第二組	班長 海軍少佐 大野廣司 班員 海軍大尉 荒津謙二 兵曹長 松本敬二 兵曹 二	二技廠 横通校	

二 派遣期間

昭和二十年三月下旬ヨリ約一月

軍機秘海軍公報 第一〇九號 昭和二十年四月四日

長官 參謀長 機務長 官制

2329 2328

軍極秘

海軍公報

第一〇九號 (乙配付)

昭和二十年四月四日(水)

海軍大臣官房

○令 達

三 派遣地

第二、第三特攻戰隊各突擊隊及特攻基地

官房教機密第一六一號(軍極秘)
術科現地指導規程ニ基キ左ニ依リ通信術指導班ヲ九州及中國方面ニ派遣シ主トシテ第二、第三特攻戰隊ニ對スル術科指導講習ヲ實施ス

昭和二十年三月三十一日

海軍大臣

一 編制等

組別	編制	派出處	指導方面	實施要領
第一組	班長 海軍中佐 半田仁貴知 班員 海軍技手 鈴木理助 兵曹長 吉田豊之進 兵曹 横通校	横通校	九州	講習ノ細項ニ關シテハ第二、第三特攻戰隊司令官ト詳細打合せ實施スルモノト
第二組	班長 海軍少佐 大野廣司 班員 海軍大尉 荒津謙二 技術大尉 松本敬明 兵曹長 横通校 兵曹 横通校	横通校		

二 派遣期間

昭和二十年三月下旬ヨリ約一月

軍極秘海軍公報 第一〇九號

昭和二十年四月四日

一一三

2329

2328

海軍公報 第二一〇號 (乙配付)

昭和二十年四月五日(木)
海軍大臣官房

○令 達

内令第二七二號(軍極秘)

戰時編制實施中ノ海軍航空隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年四月一日

海軍大臣

横須賀海軍航空隊ノ項中

水上偵察機	半隊
陸上偵察機	半隊
陸上戦闘機(甲)	半隊
陸上戦闘機(乙)	半隊
陸上戦闘機(丙)	半隊
艦上爆撃機	半隊
陸上爆撃機	半隊
艦上攻撃機	半隊
陸上攻撃機	半隊
飛行艇	半隊

ヲ

陸上偵察機	一隊
陸上戦闘機(甲)	一隊
陸上戦闘機(丙)	半隊
陸上爆撃機	半隊
哨戒機	半隊

改ム

(軍極秘内令提要三頁参照)

軍極秘海軍公報 第二一〇號 昭和二十年四月五日

一一五

2331

2330

軍極秘

海軍公報 第二一〇號 (乙配付)

昭和二十年四月五日(木)
海軍大臣官房

〇令 達

改ム

内令第二七二號(軍極秘)

戰時編制實施中ノ海軍航空隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年四月一日

海軍大臣

横須賀海軍航空隊ノ項中

飛行艇	水上偵察機	陸上偵察機	陸上戦闘機(甲)	陸上戦闘機(乙)	陸上戦闘機(丙)	陸上爆撃機	陸上爆撃機	艦上攻撃機	艦上攻撃機
半隊	半隊	半隊	半隊	半隊	半隊	半隊	半隊	半隊	半隊

ヲ

陸上偵察機	陸上戦闘機(甲)	陸上戦闘機(丙)	陸上爆撃機	哨戒機
一隊	一隊	半隊	半隊	半隊

ニ

(軍極秘内令提要三頁参照)

軍極秘海軍公報 第二一〇號 昭和二十年四月五日

一一五

2331

2330

海軍

海軍公報 第二二二號 (甲配付)

昭和二十年四月六日 (金)

海軍大臣 官房

20. 4. 24

○通 牒

軍務一機密第二四一號 (軍機秘)

昭和二十年四月五日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

航空以外特攻兵器及火藥關係書類、物件ノ標識ニ關スル件中選

自今航空以外特攻兵器 (潛小ヲ含ム) 及火藥、爆藥關係ノ書類、物件ニハ (改) ノ符號ヲ附スルコトニ定メラレ候

○雜 款

○機密圖書、兵器、需品等受領ニ關スル件

從來各部ヨリ 788 司令部用トシテ供用セラレタル機密圖書、兵器、需品等ハ第十特攻戰隊司令部用トシ三月二十日附受領セルモノトシ受拂關係ヲ整理相成度

(第十特攻戰隊司令部)

○開隊

部隊名 所在地 開隊月日

長官 參謀長 機關長

軍機秘海軍公報 第二二二號

昭和二十年四月六日

官

一七

平生突擊隊	山口縣熊毛郡佐賀村大字佐賀	三月一日	一 機密保持上 部隊ニ對シテ 二 旅行願路 三 山陽本線柳井驛下車至津山ハスニテ津校分校前下車
第十特攻戰隊司令部	横須賀潜水艦基地隊内	三月二日	一 機密保持上 部隊ニ對シテ 二 電話交換 三 郵便物宛先 四 異局氣付 五 四五ノ六ハ

2333 2332

軍極秘

海軍公報 第一二一號 (甲配付)

昭和二十年四月六日(金)

海軍大臣官房

○通牒

軍務一機密第二四一號(軍極秘)
昭和二十年四月五日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

航空以外特攻兵器及火藥關係書類、物件ノ標識ニ關スル件申進

自今航空以外特攻兵器(潛小ヲ含ム)及火藥、爆藥關係ノ書類、物件ニハ(政)ノ符號ヲ附スルコトニ定メラレ候

○雜款

○機密圖書、兵器、需品等受領ニ關スル件

從來各部ヨリ7ss司令部用トシテ供用セラレタル機密圖書、兵器、需品等ハ第十特攻戰隊司令部用トシ三月二十日附受領セルモノトシ受拂關係ヲ整理相成度

(第十特攻戰隊司令部)

○開隊

部隊名 所在地 開隊月日 昭

長官參謀長

軍極秘海軍公報 第一二一號

昭和二十年四月六日

一七

平生突擊隊	山口縣熊毛郡佐賀村大字佐賀	三月一日	一 機密保持上部外ニ對シテハ「平生基地隊」ト呼稱ス 二 旅行順路 山陽本線柳井驛下車留津山陽バスニテ津校分校前下車 三 郵便物宛先 「吳局氣付ウ四五五ノ六」 機密保持上部外ニ對シテハ「部隊」ト呼稱ス 追テ第七潜水隊ハ三月二十日附解隊ニ於テ之ヲ第十特攻戰隊ニ於テ之ヲ行フ 郵便物宛先 電話 橫須賀局氣付 ウ三一〇 四二三番 幕僚室
第十特攻戰隊司令部	橫須賀潜水艦基地隊内	三月二〇日	

2333

2332

海軍公報

第二二三號 (乙配付)

昭和二十年四月九日(月)
海軍大臣官房

〇令 達

内令員第六五九號(軍機秘)

海龍整備班講習員ニ充ツル爲別表ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和二十年四月一日

海軍大臣

(別表添)

長官	參謀長
副官	參謀副官
參謀	參謀
參謀	參謀
參謀	參謀
參謀	參謀
參謀	參謀
參謀	參謀

軍機秘海軍公報 第二二三號 昭和二十年四月九日

二二九

2335 2334

軍極秘

海軍公報

第二二三號 (乙配付)

昭和二十年四月九日(月)
海軍大臣官房

○令 達

内令員第六五九號(軍極秘)

海龍整備班講習員ニ充ツル爲別表ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和二十年四月一日

海軍大臣

(別表添)

長官	參謀長	參謀	副官

軍極秘海軍公報 第二二三號

昭和二十年四月九日

一一九

2335 2334

海軍公報 第二二三號 (乙配付)

昭和二十年四月十二日(木)
海軍大臣官房

○令 達

内令員第六六九號(軍極秘)
震洋關係員ニ充ツル爲別表ノ通人員ヲ臨時増置ス
昭和二十年四月一日

(別表添)

海軍大臣

内令員第六七〇號(軍極秘)
蛟龍領収員ニ充ツル爲左ノ通人員ヲ臨時増置ス
昭和十八年内令第一六〇八號六之ヲ廢止ス
昭和二十年四月一日

吳海軍工廠

海軍大臣

中少尉(水)、兵曹長 附 三人(吳領)
兵 曹 八人(警備兵六、吳領兵二)

機關兵 曹 四人(警備機兵一、吳領機兵三)

海軍艦政本部(廣島海軍監督官事務所岡山出張所ニ充ツベキモノ)
中少尉(水)、兵曹長 二人(吳、佐領 各一)

兵 曹 六人(警備兵三、吳領兵三)

軍極秘海軍公報 第二二三號 昭和二十年四月十二日

機關兵 曹 二人(警備機兵一、吳領機兵一)

(參照) 廢止内令ハ吳海軍工廠(甲標的、運貨備關係業務ニ充ツベキモノ)ニ人員臨時増置ノ件ナリ

内令員第六七一號(軍極秘)
海龍領収員ニ充ツル爲左ノ通人員ヲ臨時増置ス
昭和二十年四月一日

横須賀海軍工廠 海軍大臣

中少尉(水)、兵曹長 附 十人(警備機兵一、佐領二、吳領七)

兵 曹 五人(警備機兵一、吳領機兵四)

機關兵 曹 六人(警備機兵一、吳領機兵五)

内令員第六八〇號(軍極秘)
昭和十九年内令第一六七七號中左ノ通改正ス
昭和二十年四月五日

海軍大臣

「五十三人」ヲ「五十一人」ニ、
「一九」ヲ「一七」ニ改ム

局長機關(前記内令員ハ父島方面特別根據地陸上人員臨時増置ノ件)

2338

2337

海軍公報 第二一三號 (乙配付)

昭和二十年四月十二日(木)
海軍大臣官房

○令 達

内令員第六六九號(軍極秘)
震洋關係員ニ充ツル爲別表ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和二十年四月一日

海軍大臣

(別表添)

内令員第六七〇號(軍極秘)

蛟龍領收員ニ充ツル爲左ノ通人員ヲ臨時増置ス
昭和十八年内令第一六〇八號ハ之ヲ廢止ス

昭和二十年四月一日

海軍大臣

吳海軍工廠

中少尉(水)、兵曹長 附

兵 曹

機 關 兵 曹

海軍艦政本部(廣島海軍監督官事務所岡田出張所ニ充ツベキモノ)
中少尉(水)、兵曹長 二人(吳、佐領 各一)
兵 曹 六人

機 關 兵 曹

二人(警内次兵内次(機、各一))

(參照) 廢止内令ハ吳海軍工廠(甲標的、運貨荷關係業務ニ充ツベキモノ)ニ人員臨時増置ノ件ナリ

内令員第六七一號(軍極秘)

海龍領收員ニ充ツル爲左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和二十年四月一日

海軍大臣

横須賀海軍工廠

中少尉(水)、兵曹長 附

兵 曹

機 關 兵 曹

内令員第六八〇號(軍極秘)
昭和十九年内令員第一六七七號中左ノ通改正ス
昭和二十年四月五日

「五十三人」ヲ「五十一人」ニ、

海軍大臣

「九」ヲ「七」ニ改ム

「五」ヲ「三」ニ改ム

前記内令員ハ父島方面特別根據地隊ニ人員臨時増置ノ件ナリ

軍極秘海軍公報 第二一三號

昭和二十年四月十二日

内令員第六八一號 (軍機秘)

昭和十九年内令員第一八七八號中左ノ通改正ス

昭和二十年四月五日

海軍大臣

父島方面特別根據地隊 (第二震洋隊ニ充ツベキモノ)ノ部中
「横須賀鎮守府在籍者 四七」ヲ「横領 四一、吳領 五」ニ改ム
「吳領守府在籍者 二」ヲ「佐領 三」ニ改ム
「母島警備隊 (第三震洋隊ニ充ツベキモノ)ノ部中
「横須賀鎮守府在籍者 三八」ヲ「横領 三五、吳領 一一」ニ改ム
「吳領守府在籍者 一〇」ヲ「佐領 二、舞鶴領 一一」ニ改ム

(参照) 前記内令員ハ父島方面特別根據地隊 (第二震洋隊ニ充ツベキモノ)等ニ人員臨時増置ノ件ナリ

内令員第六八二號 (軍機秘)

昭和二十年内令員第三五八號別表中掌内火兵 (自動車)ノ項

「一」ヲ「二」ニ改ム

同年内令員第三六九號中「第一特別基地隊」ヲ「第二特攻隊司令部」ニ「隊附」ヲ「附」ニ「(自動車)」ヲ「(自動車) 四」ニ改ム

昭和二十年四月五日

海軍大臣

(参照) 昭和二十年内令員第三五八號 (大島防備隊等ニ人員臨時増置ノ件)
同年内令員第三六九號 (第一特別基地隊 (第三甲標の隊基地員ニ充ツベキモノ)ニ人員臨時増置ノ件)

内令員第六八三號 (軍機秘)

蛟龍取扱講習員ニ充ツル爲左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和二十年四月五日

海軍大臣

大浦突撃隊 (第三次整備班員講習ニ充ツベキモノ)

大中尉 (水) 隊附 十二人 (横領 各一、吳領 各一)

中少尉 (水) 隊長 十二人 (横領 各四、吳領 各三)

中少尉 (機) 隊長 六人 (横領 各二、吳領 各二)

機關兵曹長 隊附 十八人

兵曹 六十三人

機關兵曹 五十四人

水兵 二百三十四人

機關兵 二百八十八人

機 關 兵	二百八十八人	機 關 兵 (補) 一〇〇 機 關 兵 (電) 八八 機 關 兵 (水) 八八
水 兵	二百三十四人	機 關 兵 (補) 一〇〇 機 關 兵 (電) 八八 機 關 兵 (水) 八八
機 關 兵	二百八十八人	機 關 兵 (補) 一〇〇 機 關 兵 (電) 八八 機 關 兵 (水) 八八

兵		修		特		主		衛		工		機		水		主		衛		工		機		兵		隊		隊		隊		隊		在籍者	
掌	掌	掌	掌	掌	掌	掌	掌	掌	掌	掌	掌	掌	掌	掌	掌	掌	掌	掌	掌	掌	掌	掌	掌	掌	掌	掌	掌	掌	掌	掌	掌	掌	掌	掌	
次	經	工	電	潜	内	信	機	砲	計	生	作	關	機	水	主	衛	工	機	兵	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中		
編	理	兵	機	航	火	號	雷	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	
兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	
下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	
士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士
官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官
一〇	七〇	四〇	四〇	二〇	二〇	一〇	一〇	一〇	八〇	四〇	六〇	一三〇	五九〇	二〇	二〇	六〇	五〇	二〇〇	五〇	一〇															
三	三	三	三	六	六	三	三	三	二四	一三	一八	四八	一七七	六	六	一八	一八	六〇	一一	三															
三	三	三	三	六	六	三	三	三	二四	二二	一八	二五	一七七	六	六	一八	一五	六〇	一一	三															
三	三	三	三	六	六	三	三	三	二四	二二	一八	四一	一七七	六	六	一八	一五	六〇	二二	三															
一	一	四	四	二	二	一	一	一	八	四	六	七〇	一六	五九	二	二	一〇	二〇	五	一															

(内令員第六六九號別表)
川棚突撃隊(第九次震洋隊購習員ニ充ツベキモノ)

(昭和三十年四月十二日軍機報海軍公報)

海軍公報

第二一四號

(甲配付)

昭和二十年四月十三日(金)

海軍大臣官房

○通牒

官房設機密第二六六號(軍極秘)

昭和二十年四月十二日

海軍次官

各所屬長官殿

横穴隱蔽式海面砲臺施設計畫並ニ實施要領ノ件申進

首題ノ件別冊ノ通定メラレ候

別冊ハ所要ノ向ニ之ヲ配付ス

官房設機密第六〇九號(軍極秘)

昭和二十年四月十日

海軍省副官

聯合艦隊參謀長殿

新製飛行機整備試飛行ニ關スル件申改正ノ件

通知

昭和二十年官房設機密第三二二號首題訓令中第二號主要供給基地ノ項中左記ヲ追加セラレ候

記

美保、伊賀上野

航本機密第二八四六號(軍極秘)

昭和二十年四月十日

海軍航空本部長

關係各廳長殿

新製飛行機供給基地ニ關スル件通牒

今回官房設機密第六〇九號ニ依リ追加セラレタル主要供給基地「美保及伊賀上野」ハ昭和二十年四月十五日以降當分ノ間三菱重工業株式會社第三及第七製作所ニテ生産ノ一式陸上攻撃機關係供給基地トセララル豫定ニ付可然取計相成度

追テ自今供給基地ニ於ケル整備試飛行機種ノ變更其ノ他詳細ニ關シテハ部隊用航空機空中檢送計畫ニヨル義ト了知相成度

○雜款

○事務開始

事務所名	設置場所	事務開始月日	記
第十一突擊隊派遣隊	海軍航海學校内	三月八日	轉勤者赴任先 第十一突擊隊(海軍航海學校内)赴任
第一特攻隊司令部	海軍水雷學校内	三月二〇日	郵便物發送先 海軍水雷學校(浦町)赴任

軍極秘海軍公報 第二一四號 昭和二十年四月十三日

二三三

2342

2341

海軍公報

第一四號 (甲配付)

昭和二十年四月十三日(金)

海軍大臣官房

○通牒

官房設機密第二六六號(軍極秘)

昭和二十年四月十二日

海軍次官

各所屬長官殿

横穴隱蔽式海面砲臺施設計畫並ニ實施要領ノ

件申進

首題ノ件別冊ノ通定メラレ候

別冊ハ所要ノ向ニ之ヲ配付ス

官房設機密第六〇九號(軍極秘)

昭和二十年四月十日

海軍省副官

聯合艦隊參謀長殿

新製飛行機整備試飛行ニ關スル件中改正ノ件

通知

昭和二十年官房設機密第三一二號首題訓令中第二號主要供給基地ノ項中左記ヲ追加セラレ候

記

美保、伊賀上野

航本機密第二八四六號(軍極秘)

昭和二十年四月十日

海軍航空本部長

關係各廳長殿

新製飛行機供給基地ニ關スル件通牒

今回官房設機密第六〇九號ニ依リ追加セラレタル主要供給基地

「美保及伊賀上野」ハ昭和二十年四月十五日以降當分ノ間三菱重

工業株式會社第三及第七製作所ニテ生産ノ一式陸上攻撃機關係

供給基地トセララル豫定ニ付可然取計相成度

道テ自今供給基地ニ於ケル整備試飛行機種ノ變更其ノ他詳細

ニ關シテハ部隊用航空機空中輸送計畫ニヨル義ト了知相成度

○雜款

○事務開始

事務所名	設置場所	事務開始月日	記
第十一突擊隊	海軍航海學校内	三月八日	轉勤者赴任先 第十一突擊隊ヘノ轉任者 ハハ一應海軍航海學校内第 十一突擊隊遺隊ニ赴任 セシメラレ度
第一特政隊司令部	海軍水雷學校内	三月二日	郵便物發送先 學校氣付市田浦町海軍水雷

第百一突撃隊

横須賀潜水艦基地隊内

三月二〇日

郵便物發送先
横須賀局 氣付ウ六〇二
電話
横須賀交換 二四二三番
幕僚室

○轉勤者赴任先變更

三月二十四日以降當隊へノ轉勤者ハ左ニ依リ赴任センメラレ度

- 一 所在地 鹿兒島市 鹿兒島海軍下士官兵集會所内
- 一 順路 鹿兒島驛ヨリ市電ニテ谷山線騎射場停留所(軌道四軒)下車

追テ旅費ハ鹿兒島驛迄前金拂ノコトニ取計ハレ度

(第三十二突撃隊)

軍極秘

海軍公報

第一一五號 (乙配付)

海軍大臣官房

昭和二十年四月十四日(土)

○令 達

内令第二九六號(軍極秘)

戦時編制實施中ノ海軍航空隊編制中左ノ通改定セラレ

昭和二十年四月五日

海軍大臣

第一一海軍航空隊ノ項ヲ削ル

第三一海軍航空隊ノ項中

練習機 十二隊

練習機 十三隊

第六三二海軍航空隊ノ項中

水上偵察機 一隊

水上偵察機 二隊

改ム

(軍極秘内令提要三頁参照)

軍極秘海軍公報 第一一五號 昭和二十年四月十四日

二二五

2345

2344

軍極秘

海軍公報

第一一五號 (乙配付)

昭和二十年四月十四日(土)
海軍大臣官房

○令 達

内令第二九六號(軍極秘)
戰時編制實施中ノ海軍航空隊編制中左ノ通改定セラル
昭和二十年四月五日

海軍大臣

第一一海軍航空隊ノ項ヲ削ル

第三一海軍航空隊ノ項中

第六三一海軍航空隊ノ項中

改ム

水上偵察機 一隊

ヲ

水上偵察機 二隊

ニ

練 習 機 十三隊

ニ

(軍極秘内令提要三頁参照)

軍極秘海軍公報 第一一五號 昭和二十年四月十四日

二二五

2345

2344

軍極秘

海軍公報

第一六號 (乙配付)

昭和二十年四月二十日 (金)
海軍大臣官房

命令

内令員第七一九號 (軍極秘)

昭和二十年内令員第一三四號中左ノ通改正ス

昭和二十年四月十日

海軍大臣

〔掌衣糧兵 一〕ヲ〔掌經理兵 一、掌衣糧兵 一〕ニ改ム

(參照) 前記内令員ハ川柳突撃隊 (第三十九震洋隊要員ニ充ツベキ
(モ)ニ人員臨時増設ノ件ナリ

長官	參謀長	參謀	副參謀	參謀	參謀	參謀	參謀	參謀	參謀
----	-----	----	-----	----	----	----	----	----	----

軍極秘海軍公報 第一六號

昭和二十年四月二十日

一七

2347 2346

軍極秘

海軍公報

第一一六號 (乙配付)

昭和二十年四月二十日(金)
海軍大臣官房

○令達

内令員第七一九號(軍極秘)

昭和二十年内令員第一三四號中左ノ通改正ス

昭和二十年四月十日

海軍大臣

「掌衣糧兵」一「」ヲ「掌經理兵」一、掌衣糧兵「」ニ改ム

(参照) 前記内令員ハ川棚突撃隊(第三十九震洋隊要員ニ充ツベキモノ)ニ人員臨時増置ノ件ナリ

長官	參謀長	參謀	參謀	參謀	參謀	參謀	參謀	參謀	參謀

軍極秘海軍公報 第一一六號 昭和二十年四月二十日

二二七

2347 2346

海軍公報 第二七號 (甲配付)

昭和二十年四月二十一日(土)
海軍大臣官房

○令 達

官房空機密第六四七號(軍機秘)

昭和二十年四月十六日

海軍大臣

各領守府司令長官、海上護衛司令長官、
第三、第五、第十航空艦隊司令長官 殿

電測術巡回講習ノ件訓令

横須賀鎮守府司令長官ハ横須賀海軍航空隊ヲシテ首題ノ件左記ニ依リ實施セシムベシ
海上護衛司令長官、吳、佐世保、舞鶴各鎮守府司令長官及第三、第五、第十航空艦隊司令長官ハ右ニ協力スベシ

一 目的

航空部隊電測術力ノ向上普及ヲ圖ルニ在リ

二 期 間

四月上旬以後當分ノ間

三 實施要領

- (イ) 指導班約三組ヲ編成シ各基地ニ所要期間帯ニシテ各隊
作戦實施ノ狀況ニ應ジ機會教育ヲ實施ス
- (ロ) 各隊幹部及徒來ノ電測術教育未済者ニ對シ

軍機秘海軍公報 第一一七號

昭和二十年四月二十一日

キ他ニ對シテハ現場ニ於ケル實地指導ニ努ム
(ハ) 其ノ他指導官所定

四 指導官並ニ同輔佐官

指導官 横須賀海軍航空隊司令
同輔佐官 同右職員

五 講習員並ニ講習項目

講習員	前 期	後 半 期
搭乗員	兵器理論ノ大要	電測法ノ指導
整備員	整備法	整備ノ實地指導
取扱調整法		

六 使用兵器

各隊供用中ノモノヲ使用スルモノトス

七 經 費

請求ヲ俟ツテ別途配付ス

2349

2348

長官 謀 長 長 謀

20.5.0

二二九

海軍公報

第一一七號 (甲配付)

昭和二十年四月二十一日(土)
海軍大臣官房

○令 達

官房密機第六四七號(軍極秘)

昭和二十年四月十六日

海軍大臣

各鎮守府司令長官、海上護衛司令長官、
第三、第五、第十航空艦隊司令長官 殿

電測術巡回講習ノ件訓令

横須賀鎮守府司令長官ハ横須賀海軍航空隊シテ首題ノ件左記
ニ依リ實施セシムベシ

海上護衛司令長官、吳、佐世保、舞鶴各鎮守府司令長官及第三、
第五、第十各航空艦隊司令長官ハ右ニ協力スベシ

記

一 目的

航空部隊電測術力ノ向上普及ヲ圖ルニ在リ

二 期間

四月上旬以後當分ノ間

三 實施要領

- (イ) 指導班約三組ヲ編成シ各基地ニ所要期間滞在セシメ各隊
作戰實施ノ狀況ニ應ジ機會教育ヲ實施ス
- (ロ) 各隊幹部及従來ノ電測術教育未済者ニ對シ

キ他ニ對シテハ現場ニ於ケル實地指導ニ努ム

(ハ) 其ノ他指導官所定

四 指導官並ニ同輔佐官
指導官 横須賀海軍航空隊司令
同輔佐官 同右職員

五 講習員並ニ講習項目

講習員	前 半 期	後 半 期
搭乗員	兵器理論ノ大要	電測法ノ指導
整備員	整備法 取扱調整法	整備ノ實地指導

六 使用兵器
各隊供用中ノモノヲ使用スルモノトス

七 經費

請求ソ俟ツテ別途配付ス

軍極秘海軍公報 第一一七號

昭和二十年四月二十一日

二二九

2349

2348

海軍公報

第一一八號 (乙配付)

昭和二十年四月二十四日(火)
海軍大臣官房

○令 達

官房需機密第一三〇號(軍機秘)

昭和十九年官房需機密第四〇七號中左ノ通改正ス

昭和二十年四月二十三日

海軍大臣

「甲標的、回天並ニ震海」ヲ「蛟龍、回天、震海、震洋及海龍等」ニ改ム

別表中略靴ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

作業手袋

一組

搭乗員若ハ整備員タル
准士官以上、下士官及
兵ニ對シ必要數

著色ゴム引絹布製、
三指式

同表備考中「護謨半長靴」ヲ「筒革部ヲ厚織布トセルモノ又ハ護謨半長靴」ニ改ム

(參照) 昭和十九年官房需機密第四〇七號ハ甲標的等ニ被服物品貸與ノ件ナリ(昭和十九年十一月四日軍機秘海軍公報第二九號)

長官	參謀長	參謀	參謀	參謀	參謀	參謀	參謀	參謀	參謀
副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官

軍機秘海軍公報 第一一八號 昭和二十年四月二十四日

一三一

2351

2350

軍極秘

海軍公報 第一一八號 (乙配付)

○令 達

官房需機密第一三〇號(軍極秘)

昭和十九年官房需機密第四〇七號中左ノ通改正ス

昭和二十年四月二十三日

海軍大臣

「甲標的、回天竝ニ震海」ヲ「蛟龍、回天、震海、震洋及海龍等」ニ改ム

別表中略靴ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

作業手袋	一組	搭乗員若ハ整備員タル兵ニ對シ必要數	著色ゴム引絹布製、三指式
------	----	-------------------	--------------

同表備考中「護謨半長靴」ヲ「筒革部ヲ厚織布トセルモノ又ハ護謨半長靴」ニ改ム

(參照) 昭和十九年官房需機密第四〇七號ハ甲標的等ニ被服物品代與ノ件ナリ(昭和十九年十一月四日軍極秘海軍公報第二九號)

長官 海軍大臣 官制 參謀

昭和二十年四月二十四日(火)

海軍大臣官房

軍極秘海軍公報 第一一八號

昭和二十年四月二十四日

一三一

2351

2350

海軍公報 第二一九號 (甲配付)

昭和二十年四月二十五日(水)
海軍大臣官房

○令 達

内令員第七五一號(軍極秘)
海軍定員令中左ノ通改正セラレ

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

二等巡洋艦定員表其ノ五中「筑摩」ヲ削ル

(内令提要別冊二七〇頁参照)

内令員第七五二號(軍極秘)
特修兵教員配置規則中左ノ通改正ス

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

特修兵配置表其ノ八二等巡洋艦ノ部中「筑摩」ヲ削ル

(内令提要別冊四八四頁参照)

○通 牒

官房需機密第二二〇號(軍極秘)

昭和二十年四月十六日

海軍次官

各領守府
各警備府
聯合艦隊
司令長官殿

國內ニ於ケル海軍部内戰時糧食生産非常對策
ニ關スル件申述

首題ノ件ニ關シ官房需機密第五五號ヲ以テ訓令セラレ候處水産
生産實施ニ關シテハ左記ニ依リ取計相成度

追テ水産生産計畫ニ關シテハ各軍需部別ニ軍需局糧食生産班
ヲシテ實地ニ就キ指導案測セシムベク候

記

一 生産目標

一應各領守府(警備府)管下ヲ通ジ生産品トシテ所要量ノ一
割ヲ目標トスルモ極力増産ニ努ムルモノトス

二 糧食生産ノ實施

(イ) 各部隊、學校、病院等ニ於テハ現員ヲ以テ地曳網、掛網、
陷罾漁業等簡易ナル漁撈ヲ行フモノトシ軍需部、同支部ニ

於テハ必製ニ應ジ南方進出豫定漁船等ヲ用ヒ又ハ遊休漁場
ニ於ケル定置網漁業等ヲ業者ニ委託スルヲ得ルモノトス

(ロ) 漁撈實施、漁業委託ニ付テハ當該都道府縣廳、地元漁業
會等ト緊密ナル連絡ヲ保テ漁業權侵害等不要ナル摩擦ヲ生
ゼシメザルモノトス

2353

2352

軍極秘海軍公報 第二一九號 昭和二十年四月二十五日

一三三

海軍公報

第一一九號

(甲配付)

昭和二十年四月二十五日(水)

海軍大臣官房

○令 達

内令員第七五一號(軍極秘)

海軍定員令中左ノ通改正セラル

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

二等巡洋艦定員表其ノ五中「筑摩」ヲ削ル

(内令提要別冊二七〇頁参照)

内令員第七五二號(軍極秘)

特修兵教員配置規則中左ノ通改正ス

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

特修兵配置表其ノ八二等巡洋艦ノ部中「筑摩」ヲ削ル

(内令提要別冊四八四頁参照)

○通 牒

官房需機密第二二〇號(軍極秘)

昭和二十年四月十六日

海軍次官

各鎮守府
各警備府
聯合艦隊
司令長官殿

國內ニ於ケル海軍部内戰時糧食生産非常對策
ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シ官房需機密第五五號ヲ以テ訓令セラレ候處水産
生産實施ニ關シテハ左記ニ依リ取計相成度
道テ水産生産計畫ニ關シテハ各軍需部別ニ軍需局糧食生産班
ヲシテ實地ニ就キ指導案割セシムベク候

記

一 生産目標

一應各鎮守府(警備府)管下ヲ通ジ生糧品トシテ所要量ノ一
割ヲ目標トスルモ極力増産ニ努ムルモノトス

二 糧食生産ノ實施

(イ) 各部隊、學校、病院等ニ於テハ現員ヲ以テ地曳網、掛網、
陷網漁業等簡易ナル漁撈ヲ行フモノトシ軍需部、同支部ニ
於テハ必製ニ應ジ南方進出豫定漁船等ヲ用ヒ又ハ遊休漁場
ニ於ケル定置網漁業等シ業者ニ委託スルヲ得ルモノトス
(ロ) 漁撈實施、漁業委託ニ付テハ當該都道府縣廳、地元漁業
會等ト緊密ナル連繫ヲ保テ漁業權侵害等不要ナル摩擦ヲ生
ゼシメザルモノトス

<p>三 糧食生産資材等</p>	<p>所製資材ハ國內需給狀況ニ鑑ミ極力創意工夫ヲ以テ之ガ自給ヲ圖ルモノトス</p>		
<p>(イ) 種 苗 (活魚介)</p>	<p>各軍需部、同支部ニ於テ準備ノ上供給スルモノトス但シ地方特産物等ハ各部隊ニ於テ所在地都道府縣ニ連絡ノ上取得スルモノトス</p>		
<p>(ロ) 漁 具</p>	<p>各鎮守府(警備府)管下ノ各部(隊)ニ於ケル廢材ヲ極力利用スルモノトシ尙必要ニ應ジ次糧廠、軍需部ヨリ之ヲ貸與スルモノトス</p>		
<p>(ハ) 燃油及潤滑油</p>	<p>漁獲物ヨリ搾油スル等凡有手段ヲ講ジ極力自給スルモノトス</p>		
<p>○ 雜 款</p>			
<p>○ 開隊</p>			
<p>部 隊 名</p>	<p>所 在 地</p>	<p>開隊月日</p>	<p>記 事</p>
<p>第十二突撃隊</p>	<p>横須賀海軍水雷學校内</p>	<p>三月二〇日</p>	<p>四月十三日千葉縣夷隅郡勝浦町ニ移駐 旅行頭路 約十分東勝浦工業學校内</p>
<p>第三十三突撃隊</p>	<p>興部隊(川棚突撃隊)内</p>	<p>四月一日</p>	
<p>第十六突撃隊 横須賀海軍機關學校内第十六風隊(小山隊) 四月二〇日 電話 横須賀交換 四二〇七番</p>			

海軍公報

第二〇號 (乙配付)

海軍大臣官房

昭和二十年四月二十六日(木)

○令 達

内令員第七五四號(軍極秘)
當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

第二特攻戰隊(回天基地員ニ充ツベキモノ)

隊附	中少尉(機)	機關兵曹長	兵曹、水兵	機關兵曹	工作兵曹	衛生兵曹	主計兵曹	掌砲兵	掌信號兵	掌帆兵(舵)
5	5	290	116	200	200	15	15	5	10	10
機須賀	吳	佐世保	舞鶴	40	40	4	4	1	2	2
4	1	58	58	40	40	4	4	1	2	2

掌衣糧兵		掌工兵		掌電機兵		掌内火兵		掌機兵		掌信兵	
木具	金工	機兵	自動車	内火	補機	補機	補機	補機	補機	補機	補機
5	5	15	10	15	5	20	15	20	15	15	15
2	2	4	4	6	2	8	8	8	8	8	8
1	1	3	2	3	1	4	4	4	4	4	4
1	1	3	2	3	1	4	4	4	4	4	4

2356

2355

軍極秘海軍公報 第二〇號 昭和二十年四月二十六日

一三五

軍極秘

海軍公報

第二〇號 (乙配付)

海軍大臣官房

昭和二十年四月二十六日(木)

○令 達

内令員第七五四號(軍極秘)

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

第二特攻戰隊(同大基地員ニ充ツベキモノ)

在籍	鎮守府別	横須賀	吳	佐世保	舞鶴
隊附	軍醫中少尉	五			
隊附	中少尉(機)	五	二	一	一
兵曹、水兵	二九〇	一一六	五八	五八	五八
機關兵曹	二〇〇	八〇	四〇	四〇	四〇
工作兵曹	二〇	八	四	四	四
衛生兵曹	一五	六	三	三	三
主計兵曹	一五	六	三	三	三
掌砲兵	五	二	一	一	一
掌信號兵	一〇	四	二	二	二
掌帆兵(舵)	一〇	四	二	二	二

掌工兵		掌電機兵	掌内火兵		掌機兵	掌電信兵
木具	金工	機兵	自動車	内火	補機	信兵
五	五	一〇	一五	五	二〇	一五
二	二	四	六	二	八	六
一	一	三	三	一	四	三
一	一	三	三	一	四	三
一	一	三	三	一	四	三

2356

2355

軍極秘海軍公報 第二〇號

昭和二十年四月二十六日

一三五

海軍公報 第二二二號 (甲配付)

昭和二十年四月二十七日 (金) 海軍大臣官房 20 15

○令 達

内令第三四六號 (軍極秘)

舞鶴鎮守府在籍

軍艦 筑 摩

右帝國軍艦籍ヨリ除カル

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

○通 牒

官房軍機密第四二七號 (軍極秘)

昭和二十年四月二十六日

海軍次官

關係各廳長殿

國內戰備防諜強化ニ關スル件通知

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通次官會議ニ於テ決定致候條可然取計相

成度

(別紙)

國內戰備防諜強化要綱

第一方 針

軍極秘海軍公報 第二二二號

昭和二十年四月二十七日

三七

國內作戦準備ニ對スル防諜措置ヲ強化シ就中我作戦企圖、基地、兵力配置、築城又ハ軍需品集積等ニ對スル秘匿措置ニ重點ヲ指向シ以テ我戰備防諜ノ完璧ヲ期セントス

第二要 領

- 一 要秘匿對象所在地ニ對スル外國人ノ旅行又ハ立入ヲ禁止又ハ制限ス
- 二 要秘匿地域又ハ施設等ニ對スル立入、視察等ニ關シテハ外國人ハ勿論邦人ニ就テモ可及的ニ之ヲ制限ス
- 三 要秘匿地域ニ對スル外國人ノ居住制限ヲ強化シ要スレバ其ノ立退ヲ考慮ス
- 四 國內作戦準備業務關係官民ニ對スル防諜啓發指導ヲ徹底シ隨時必要ナル監査ヲ實施ス
- 五 國民全般就中要秘匿地域ノ地方民ニ對スル防諜指導ヲ強化ス
- 六 前二項ニ即應シ通信取縮ヲ強化ス
- 七 新聞紙其ノ他ノ出版物ニ付國內作戦準備ヲ知得セシムルニ對シテ記事ニ對スル取縮ヲ強化ス
- 八 官廳出版物等ニシテ國內作戦準備ヲ知得セシムル可及的ニ之ヲ記載ヲ制限ス

國內戰備防諜強化ニ對スル要綱 四及五ノ運用ニ關シテハ國內戰備強化ニ對スル要綱ニ對シテ別紙ニ示ス

2358

2357

海軍公報

第二二二號 (甲配付)

海軍大臣官房

昭和二十年四月二十七日(金)

命令

内令第三四六號(軍極秘)

舞鶴鎮守府在籍

軍艦 筑 摩

右帝國軍艦籍ヨリ除カル

昭和二十年四月二十二日

海軍大臣

通牒

官房軍機密第四二七號(軍極秘)

昭和二十年四月二十六日

海軍次官

關係各廳長殿

國內戰備防諜強化ニ關スル件通知

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通次官會議ニ於テ決定致候條可然取計相成度

(別紙)

國內戰備防諜強化要綱

第一方 針

昭和二十年四月二十七日
官房會議決定

國內作戦準備ニ對スル防諜措置ヲ強化シ就中我作戦企圖、基地、兵力配置、築城又ハ軍需品集積等ニ對スル秘匿措置ニ重點ヲ指向シ以テ我戰備防諜ノ完璧ヲ期セントス

第二要 領

- 一 要秘匿對象所在地ニ對スル外國人ノ旅行又ハ立入ヲ禁止又ハ制限ス
 - 二 要秘匿地域又ハ施設等ニ對スル立入、視察等ニ關シテハ外國人ハ勿論邦人ニ就テモ可及的ニ之ヲ制限ス
 - 三 要秘匿地域ニ對スル外國人ノ居住制限ヲ強化シ要スレバ其ノ立退ヲ考慮ス
 - 四 國內作戦準備業務關係官民ニ對スル防諜啓發指導ヲ徹底シ隨時必要ナル監査ヲ實施ス
 - 五 國民全般就中要秘匿地域ノ地方民ニ對スル防諜指導ヲ強化ス
 - 六 前二項ニ即應シ通信取締ヲ強化ス
 - 七 新聞紙其ノ他ノ出版物ニ付國內作戦準備ヲ知得セシムル(別紙)記事ニ對スル取締ヲ強化ス
 - 八 官廳出版物等ニシテ國內作戦準備ヲ知得セシムル如キモノニ付可及的ニ之ヲ記載ヲ制限ス
- 備考 要領第一、四及五ノ運用ニ關シテハ國內戰備強化ニ對ス

軍極秘海軍公報 第二二二號

昭和二十年四月二十七日

一三七

2358

2357

軍機秘海軍公報 第一三二號 昭和二十年四月二十七日

ル國民ノ積極的協力及生産増強等ニ支障ナカランシムル
様留意スルコト

二三八

2359

海軍公報

第二三三號 (乙配付)

海軍大臣官房

昭和二十年四月二十八日(土)

命令

内令員第七六七號(軍機秘)

昭和二十年内令員第四五一號中左ノ通改正ス

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

表中 一九一七 八 五 一三 二〇 一四 三

一九一七 八 四 一二 二〇 一四 三 二改ム

(参照) 前記内令員ハ舟山島警備隊(第一一四、第二二五震洋隊)ニ人員臨時増設ノ件ナリ

内令員第七六八號(軍機秘)

昭和二十年内令員第六五九號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

一〇三 三〇 二九 二九 一五

一〇三 三〇 二六 三四 一三 二改ム

(参照) 前記内令員ハ第十一突撃隊(第一回購)ニ人員臨時増設ノ件ナリ

軍機秘海軍公報 第二三三號 昭和二十年四月二十八日

内令員第七六九號(軍機秘)

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

宮古島警備隊

工作兵曹、工作兵

二人(舟艇)

内令員第七七〇號(軍機秘)

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置シ昭和二十年一月二十五日ヨリ之ヲ適用ス

昭和二十年内令員第一三四號ハ之ヲ廢止ス

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

石垣島警備隊(第三十九震洋隊ニ充ツベキモノ)

在籍領守府別		吳	佐世保
搭	隊附兵科尉官		三
乘	員曹水兵	二六	二五
員	機關兵曹、機關兵		一
附	軍醫科尉官		

2361

2360

海軍公報

第二三三號 (乙配付)

昭和二十年四月二十八日(土)

海軍大臣官房

○令 達

内令員第七六七號 (軍極秘)

昭和二十年内令員第四五一號中左ノ通改正ス

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

表中 一九一七 八 五一三二〇一四 三

一九一七 八 四 一三二〇一四 三 ニ改ム

(参照) (前記内令員ハ舟山島警備隊(第一一四、第一一五震洋隊)ニ人員臨時増置ノ件ナリ)

内令員第七六八號 (軍極秘)

昭和二十年内令員第六五九號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

一〇三 三〇 二九 二九 一五

一〇三 三〇 二六 三四 一三

(参照) (前記内令員ハ第十一突隊(第一回講義員養成隊)ニ人員臨時増置ノ件ナリ)

内令員第七六九號 (軍極秘)

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

宮古島警備隊

工作兵曹、工作兵

二人(舟艇)

内令員第七七〇號 (軍極秘)

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置シ昭和二十年二月二十五日ヨリ之ヲ適用ス

昭和二十年内令員第一三四號ハ之ヲ廢止ス

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

石垣島警備隊(第三十九震洋隊ニ充ツベキモノ)

在籍領守府別		吳	佐世保
搭	隊附兵科尉官		三
乘	員 兵曹、水	二六	二五
員	機關兵曹、機關兵		一
附	軍醫科尉官		一
長	曹、水	二	三

軍極秘海軍公報 第二三三號 昭和二十年四月二十八日

一三九

基地隊員										部員							
特修兵					基					特修兵							
掌工兵 (高/普)	特選運貨船講習了者	掌電機兵 (高/普)	掌内火兵 (高/普)		掌機雷兵 (高/普)	掌砲兵 (高/普)	工作兵曹、工作兵	機關兵曹、機關兵	兵曹、水兵	機關兵曹長	兵曹長	掌衣糧兵 (高/普)	掌經理兵 (高/普)	掌電信兵 (高/普)	掌信號兵 (高/普)	主計兵曹、主計兵	衛生兵曹、衛生兵
			自動車	内火													
○/四	四	○/二	○/六	○/二	五	一三	三九	○/一	○/一	○/一	○/一	○/一	○/一	○/一	三	二	四
○/一	四		○/一	○/六	七	一一	三五		一	一	○/一	一/二	七				

(参照) 廢止内令員ハ川棚突擊隊(第三十九震洋隊講習員)ニ人員臨時増置ノ件ナリ